

広告

企画・制作
読売新聞社広告局

医師が教える「美・健康ナビ」

第55回

やけどの痕を
残さないために

「選択肢にレーザー治療も」

医師による美と健康に役立つアドバイス「美・健康ナビ」を毎月1回、シリーズで連載しています。

やけどは日常的に起こりやすいのが一つです。冬季は特に多くなりますので、温かい飲み物やヒーターなどの暖房器具には注意が必要です。やけどした直後は水で冷やしてください。水ぶくれができても潰してはいけません。細菌が入り、感染症の原因になります。

注意したいのは「低温やけど」。こたつやカイロ、ホットカーペットなど体温より少し高い程度のものに長時間触れ続けることによって起こります。痛みを伴わず気付かなくうちに進行し、重症化するケースも多くみられます。皮膚の深部がダメージを受けた場合、手術が必要になることもあります。

やけど痕は残りやすく、色素沈着や皮膚の引きつりが起ります。重症の場合は盛り上がりったり、ケロイド状になったりすることも。最近は傷痕を目立たなくするレーザーでの治療が可能になりましたが、けがが重く、治療期間が長いほど傷痕が残りやすくなるので、適切な治療を早く受けることが肝心です。傷痕が残った場合も諦めず、医師に相談してください。



木下 孝昭先生
医療法人社団 順惺会
KOSHOClinic 院長
医学博士

協力／ワジュールコーポレーション 株式会社

電話:0798-22-4466 〒662-0051 兵庫県西宮市羽衣町5-13 ワジュール夙川(しゅくがわ)ビル1・2・3F